

科目名	コミュニケーション心理学特講	担当者	マナベ 眞邊 カズチカ 一近	期間	通年	単位数	4
-----	----------------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>ヒトは他者とのコミュニケーションにより社会生活を維持しています。円滑なコミュニケーションにより、ヒトはQOL (Quality of Life) を高めることが出来ます。コミュニケーション心理学特講では、コミュニケーションの心理学的側面についての学修を目的とします。</p> <p>1) 問題発見・解決力：事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案できる。 2) 論理的・批判的思考力：得られた情報を元に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>コミュニケーションを円滑に行うためには、コミュニケーションスキルの獲得が必要です。コミュニケーション心理学特講では、コミュニケーションスキルに必要な知覚・発声・認知過程とその発達について学習した後、コミュニケーションスキルの訓練方法・コミュニケーション手段の改善策など具体的な方法論についての学習を目的とします。</p> <p>1) コミュニケーションスキルに必要な知覚・発声・認知過程とその発達について説明できる。 2) コミュニケーションスキルの訓練方法・コミュニケーション手段の改善策など具体的な方法論について考案できる。</p> <p>【行動目標 (SB0s)】</p> <p>1) コミュニケーションの基礎になる音声知覚と発声の進化と発達の習得 2) 言語の基礎となる認知機能の進化と発達の理解 3) 発話の発達の理解 4) 各種コミュニケーションスキル訓練の理解 5) 行動分析学に基づいたコミュニケーションの改善方法の習得</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】(自主研究・レポート作成)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>manaba folio のコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。</li> <li>manaba folio の掲示板を利用し、受講者同士の協働学習を行う(課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換、レポートの推敲のためのピア・レスポンス等)。</li> <li>図書館、インターネットで自律的に論文を検索して、レポートを作成する。</li> </ul> <p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>まずは、課題に従って基本教材とレポート提出システムに掲載されている資料等を読み、草稿を仕上げます。「レポート提出のためのチェック項目」に従って、自身のレポートをチェックし、不足している点について追記の上、草稿を提出します。これに対して、修正・追記が必要かどうか教員から指示がありますので、それに従って、再度、修正・追記の上草稿を提出します。これを繰り返して、最終稿に仕上げていきます。これらの教員とのやり取りが到達目標を達成するうえで大変重要になります。知覚心理学・発達心理学コミュニケーションスキル・行動分析学の学習等において、資料収集・テキストの学習に 20 時間、レポートをまとめるのに 10 時間、manaba-folio を使用したレポートの遂行作業に 15 時間、計 45 時間程度の準備学修時間を要します。</p>		
スケジュール	<p>以下のスケジュールで学習を行います。</p> <p>前期：コミュニケーションに関連する知覚と発達</p> <p>1) コミュニケーションに関連する知覚の理解 2) コミュニケーションの発達の理解</p> <p>課題1および課題2の草稿の提出期限は、それぞれ7月末と8月末にします。最終提出期限はいずれも学事歴で定められた日とします。</p> <p>後期：コミュニケーションスキルと行動分析学</p> <p>1) コミュニケーションスキルと訓練方法の理解 2) 行動分析学に基づいたコミュニケーションの改善案の考案</p> <p>課題1および課題2の草稿の提出期限は、それぞれ7月末と8月末にします。最終提出期限はいずれも学事歴で定められた日までに提出するとします。</p> <p>心理学の基礎から応用まで学習は多岐にわたります。一回の草稿提出ですべて学習するのは困難です。早めに草稿を提出し、教員の指導を受けながら、学習を進めていきます。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	75%	<p>下記の点について評価します。</p> <p>1) 留意点に従って、課題について述べているかどうか？ 2) レポート提出システム (manaba) に掲載された資料を参考に書かれているかどうか？ 3) 「レポート提出のためのチェック項目」に従って書かれているかどうか？</p>
	観察記録	25%	<p>1) 締め切り直前ではなく、1ヶ月以上の余裕を持って事前に草稿を提出し、十分な指導を受けたか？ 2) 草稿の提出とそれに対する教員のコメントに対して十分な回答がなされているかどうか？</p>
履修者への要望	<p>レポートシステムにも資料が添付されていますので、必ずダウンロードして参考にして下さい。他の課題に添付されている資料も参考になりますので、全ての資料にいったん目を通してから、レポートを書き始めて下さい。また、レポート提出のためにチェック項目にチェックを入れてから提出してください。また、「レポート提出のためのチェック項目」を参考に、自身のレポートがこれらの項目を満たしているかどうかチェックし、満たしていなければ満たしたうえで項目にチェックし、さらにチェックシートをレポートの最初に加え、提出して下さい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>深田博己編著 『コミュニケーション心理学：心理学的コミュニケーション論への招待』 (北大路書房, 1999年) ISBN:978-4-76-282160-8 2,500円+税 【紀伊國屋在庫僅少】</p> <p>著者名：重野純著 教材名：日本音響学会編『音の何でも小事典：脳が音を聴くしくみから超音波顕微鏡まで』 (講談社, 1996年) ISBN:978-4-06-257150-0 1,100円+税</p> <p>正高信夫著 『0歳児がことばを獲得するとき：行動学からのアプローチ』 (中央公論新社, 1993年) ISBN:978-4-12-101136-7 660円+税</p> <p>第1図書は、コミュニケーション心理学を理解するのに必要な心理学の基礎的な知識を網羅的に解説した入門書である。第2図書では、音声知覚の概説がなされている。第3図書では、コミュニケーションの基礎といわれる乳児の母親とのコミュニケーションの解説がなされている。</p>
参考図書	<p>深田博己『インターパーソナルコミュニケーション：対人コミュニケーションの心理学』 (北大路書房, 1998年) ISBN:978-4-76-282103-5 2,500円+税</p> <p>斉藤勇編『対人社会心理学重要研究集：対人コミュニケーションの心理』(誠信書房, 1987年) ISBN:978-4-41-432403-7 2,500円+税</p> <p>植村勝彦, 松本青也, 藤井政志『コミュニケーション学入門：心理・言語・ビジネス』 (ナカニシヤ出版, 2000年) ISBN:978-4-88-848536-4 2,400円+税</p> <p>坂元章編『インターネットの心理学：教育・臨床・組織における利用のために』 (学文社, 2000年) ISBN:978-4-76-200964-8 1,900円+税</p>
履修上のポイント	<p>コミュニケーション心理学を理解するためには、心理学の幅広い基礎知識が必要です。出来るだけ、基本教材でとりあげている各分野の心理学にふれるようにして下さい。レポートシステムに参考資料が掲載されていますので、必ず読むようにして下さい。</p>
レポート課題 1	<p>コミュニケーションに関係する外的(物理的)世界と知覚(心理的)世界のズレについて述べよ。 留意点：コミュニケーションに関係する聴覚や視覚およびその相互作用などによって生じる現象についてまとめてください。</p>
レポート課題 2	<p>コミュニケーションの発達過程について述べよ。 留意点：乳児・幼児・児童と発達する過程で、母親・家族・仲間とどの様な相互作用を行いながら発達していくかについてまとめて下さい。このとき、どの様な要因が「発達」を促進するか記述して下さい。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>島宗理 『パフォーマンス・マネジメント』 (米田出版, 2000年) ISBN:978-4-94-655307-3 1,700円+税 【紀伊國屋在庫僅少】</p> <p>教材名：眞邊一近 『ポテンシャル学習心理学』(サイエンス社, 2019年) ISBN:978-4-78191441-1 2,860円</p> <p>第1図書は、行動分析学に基づいたコミュニケーションスキルの向上法を具体的に解説した入門書である。部下のマネジメント・学校・病院・組織のマネジメントなどの具体例を学びながら、スキル向上の基本的な方法論が学べるよう構成されている。</p> <p>第2図書は、行動分析学の基礎となる「学習」をわかりやすく説明している。行動分析学の基礎から実践場面での具体例を学ぶことが出来る。</p>
参考図書	<p>アルバート・トルートマン著(佐久間徹・谷晋二監訳)『はじめての応用行動分析』(二瓶社, 1992年) ISBN:978-4-93-119915-6 3,059円+税</p> <p>相川充著『人づきあいの技術：社会的スキルの心理学』(サイエンス社, 2000年) ISBN:978-4-78-190966-0 1,650円+税</p> <p>R・ネルソン・ジョーンズ著(相川充訳)『思いやりの人間関係スキル：一人でも出来るトレーニング』 (誠信書房, 1993年) ISBN:978-4-41-430274-5 3,800円+税</p> <p>菊池章夫, 堀毛一也『社会的スキルの心理学』(川島書店, 1994年) ISBN:978-4-76-100527-6 3,200円+税</p> <p>島宗理著 『インストラクショナルデザイン』(米田出版, 2004年) ISBN:978-4-94-655319-6 2,000円+税</p>
履修上のポイント	<p>第1図書は、最初の章から順番に読んでいくことを勧める。また、参考図書の『はじめての応用行動分析』と読み合わせると理解が進むだろう。第2図書は、一般向けにわかりやすく書かれているが、本書の中でいわれていることの根拠を理解する上で、上記の図書を読んだ後で読むと良いだろう。</p>
レポート課題 1	<p>コミュニケーションスキルおよびコミュニケーションスキル訓練にはどんなものがあるかまとめよ。 留意点：コミュニケーションの過程を概説した後、個々のスキルと訓練について述べて下さい。前期の基本教材も参考にして下さい。</p>
レポート課題 2	<p>自分の職場あるいは家庭の人間関係やコミュニケーションでなにか問題を感じている事柄をとりあげ、関数分析(ABC分析)に基づいた改善策を考察せよ。 留意点：自分が考えた改善策の基礎となっている行動分析学の知見・方法論が具体的にわかるように述べて下さい。ただし、企業名や個人名が特定されないように注意すること。もし個人的な問題が無ければ、地域や市町村の問題でも構いません。</p>

### 基本教材 1

第 1 回	コミュニケーションに関連する心理学分野の理解
第 2 回	コミュニケーションの基礎になる感覚と知覚の学修
第 3 回	コミュニケーションの基礎になる音声知覚と発声の進化の学修
第 4 回	乳児期と幼児期の音声知覚と発声の発達の学修
第 5 回	幼児期の言語発達の学修
第 6 回	児童期の言語発達の学修
第 7 回	言語の基礎となる認知機能の進化と発達の学修
第 8 回	言語発達を促進する環境要因の学修
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

### 基本教材 2

第 1 回	コミュニケーションスキルの理解
第 2 回	各種コミュニケーションスキル訓練の学修
第 3 回	行動分析学の基礎の学修
第 4 回	行動随伴性の学修
第 5 回	行動の原理の学習
第 6 回	行動随伴性に基づいた関数分析（ABC 分析）の学修
第 7 回	関数分析に基づいた応用事例の学修
第 8 回	行動分析学に基づいたコミュニケーションの改善案の考案
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証